11月号
令和８年１１月１日発行

広報 ふたば

特別養護老人ホーム　双葉苑
〒８０３－０２７３　小倉南区長行東３丁目１３番１７号　TEL０９３－４５１－５８６５

～生活の舞台～ 第13回目 個室

当苑は「従来型特養」と呼ばれる施設です。従来型って何??と思われる方も居らっしゃるかもしれませんね。簡単に言えば、多床室（相部屋。当苑では４人部屋）がメインで、あらかじめ利用料が安く設定されている施設のことです。従来型と対比されるものとして「ユニット型特養」（完全個室、少人数ユニット制）というものがあります。

しかしながら、従来型特養にも「従来型個室」と呼ばれる個室があり、当苑も、入所のかた向けに個室を６室ご用意いたしております。ユニット型の個室と比べると見劣りするかもしれませんが、されどそこは個室。同室のかたを気にすることなくゆったりと、静かにお休みいただける点において、多床室に勝り、ご好評いただいております。

個室利用料（多床室との料金差）につきましては、介護保険の負担限度額（負担段階）で異なります。詳細は当苑生活相談員にお気軽にお尋ね・ご相談ください。











人間（妖怪？）もぐらたたき、大盛り上がりでした！！







ハッピーハロウィン IN 双葉苑

ふたばよもやま話（第四十五回）
～謎の巨石群　帝踏石～

小倉南区の住宅街に謎の巨石群があります。『帝踏石』と書いて「ていとうせき・たいとうせき(いわ)」と呼ばれています。

この呼び名の起源は、日本書紀で、景行（けいこう）天皇（日本武尊の父）が土蜘蛛討伐の時に戦勝祈願をした場所で、四、五個の大きな岩塊が連なっている中央の岩の上に石碑が建てられ、表には昭和８年に碑が建立されたこと、またその由来が刻まれています。

なお“土蜘蛛”とは、蜘蛛の怪物ではなく、当時の大和政権に従わぬ人々のことを例えた蔑称で、平尾台にもその伝説が残されています。



県道門司行橋線から朽網西の住宅地へ入り、庚申谷(こうしん だに)踏切を越えると、巨大な岩の塊が目に飛び込んできます。約九千万年前に地下のマグマが固まって出来た花崗閃緑岩なのだそう。住宅街に突如現れる、不思議な風景ですね。



石を割るために楔を打ったとみられる穴もあり、城の石垣に使われた可能性も。



9月生まれの方



お誕生日おめでとうございます



10月生まれの方



今月の予定（11月）

石橋胃腸内科医院 回診（毎月曜日）
2日、9日、16日、30日
ますゆき皮フ科クリニック 回診
5日(木)
小倉南歯科医院 回診（毎火・木曜日）
3日、5日、10日、12日、17日、19日、24日、26日
ビューティヘルパー（訪問理美容）
10日(火)
防災避難訓練
18日(水)

【編集雑記】▼季節の進み具合は早いもので、あれほど暑かった夏もいつの間にか終わり、暖房の恋しい季節となった▼北九州といえば八幡製鉄だが、その最大のイベントが起業祭で、その時期には霙がつきもので、大相撲九州場所千秋楽の頃には降雪も珍しくなかった。地球温暖化といわれているが、まだまだ四季を感じることはでき、その時々にあったイベントや風景を見ることもできる。平均気温の上昇もあるが、利用者様が若かった頃に比べ、夏は冷房の効いた室内で暑さを凌ぎ、冬はシャツ一枚で過ごせるくらい人工的に温度管理ができるようになった。自家用車に於いても、僅か四十年ほど前は、エアコンの装備された自動車は一部の高級車に限られ、夏場は汗だくで運転するのが普通だった▼温度管理に関してやその他諸々、入所者様が現役だった頃に比べ格段に快適便利になった現在、身体的精神的にある意味軟弱になった我々は、「夏は暑いもの」「冬は寒いもの」に対しての耐性が弱くなり、暑さ寒さを過敏に感じ過ぎるのではないだろうか▼人間の営みに比べ、変らないものが伝説や歴史ではないだろうか。今回『よもやま話』で紹介した帝踏石も、地質学から言えば、火山や造山運動に起因する自然の産物であるが、それが「伝説」として現在に伝わっている。まさに歴史のロマンともいえよう。北部九州は、日本建国の歴史に大いに関わってきた地域である。政権を樹立した大和王朝にとって従わぬ人は厄介な存在であった。まさに「勝てば官軍」で、独立精神の高かった我々九州人の先祖は、時の権力者にとっては強敵だったことだろう▼ここに数々の神話や伝説、またそれに対する言い伝えの地が生まれてくる。郷土の歴史や史跡を知ることは、祖先の生き方を知る一つの手段である。もちろん遠い歴史を学ぶことも大切だが、我々にとって最も身近な存在である入所者様の体験を窺い知ることも、大切な歴史の勉強である。